



2012~2013

KAWANOE WEEKLY

H. 25. 5. 7
No. 43



高橋省三氏繪



奉仕を通して平和を

2012-2013年度国際ロータリー会長

田中作次

- 会 長 鈴木 昇
- 幹 事 大西 聖和
- 会報委員長 高原 達也
- 例 会 日 毎週火曜日
12:10~13:10
- 例 会 場 四国中央商工会議所
電 話 58-3530
F A X 58-6294
- 事 務 局 四国中央商工会議所
電 話 58-3530

「紙のまち」に身をおいて、新技術を世界に発信

吉岡光俊

皆様ご存知のとおり、四国中央市には愛媛大学大学院の農学研究科「紙産業特別コース」があります。当クラブにも何度か卓話にお越しいただいた内村浩美教授が、来月親睦活動委員会の卓話に来られる予定になっております。

昨年1月に、四国経済産業局のインタビューマガジンに掲載されていた内村教授の記事がありましたのでご紹介いたします。お人柄が伝わる内容です。是非ご一読ください。

また、6月の卓話、楽しみにしててください。

●内村浩美さん 愛媛大学大学院農学研究科「紙産業特別コース」紹介

<http://www.agr.ehime-u.ac.jp/~webtest/kami-sangyou/>

紙のまち、愛媛県四国中央市に将来の紙産業の担い手を育成する「紙に特化した大学院」があります。ここに、世界に発信できる新技術を四国から生み出したいと考える人がいま

みどりと自然を大切に

す。大蔵省印刷局（現独立行政法人国立印刷局）で長年お札の研究開発に取り組んできたという、ユニークな経歴を持つ内村浩美教授にお話をうかがってきました。

ー長年「紙」の研究をされていますが、内村さんにとって「紙」とは一体何でしょうか？
（内村さん）「空気のように無くてはならないもの」だと思いますね。トイレットペーパーやティッシュの様に普段から何気なく使われているものもあれば、フィルター、電池の中のセパレーター、そしてお札の様な貴重製品まで、身近なところでたくさん使われています。（中略）

ー2011年4月、紙専門コースの大学院教授として四国に来られたわけですが、転身のきっかけは何だったのでしょか？

（内村さん）大学卒業後、昭和58年に印刷局に就職してからの大半を、お札の研究開発に取り組んできたわけですが、平成16年に現行のお札が誕生し、次の年からは研究業務を離れ、管理職としての業務に追われるようになりました。「もう一度、研究者に戻って研究に専念したい」と思っていた時に、大学時代の恩師から連絡があったんです。

「愛媛大学で教員の公募がある。エントリーせんか？」と。

ー家族で四国に移住してきたということですが。

（内村さん）家族にも相談しました。反対すると思っていた妻は「一度きりの人生なんだから、思うとおりにやった方がいいよ」と逆に背中を押してくれましたね。当時、中学3年だった長男からは「お父さん本当にいいの？国立印刷局の今の立場の方がいいんじゃないの？大学に行って後悔しない？」と心配されてしまいました。「大学に行って後悔するかもしれない」という気持ちが全く無かったわけではありませんが、とにかく「チャレンジしたい」という思いの方が強いことを息子には伝えました。

私の信条は「棺桶に入るときに（死ぬときに）、自分の人生良かったと言いたい」です。今はとにかく走り回っているといいですか、「やるっきゃない」という心境ですね。絶対に結果は出さないといけないと思っています。

ー四国の印象はいかがですか？

（内村さん）四国は大好きなんです。本当は、大都市の生活は苦手なんです。生まれ育ちは鹿児島島の田舎で、大学時代は高知にいました。出張でも四国にはよく来ていましたから馴染みはありましたね。家族で東京から鹿児島の実家に帰省するときも、旅行がてら四国に寄ることもありまして。ですから、今回四国にやって来たことは、私にとってはJターンです。全然、抵抗は無かったですね。（中略）

大学院では、技術に長けていることは当然として、地域の発展に貢献できる幅広い人財を創るということを目指しています。

「技術」、「経営」、「協調性」……。技術だけではなく、商品開発力やマネジメント能力と

いったことも重視しています。企業さん同士が手を組んでやっていけないといけません。紙をつくっただけじゃ売れない。加工が必要、販路開拓も必要……と考えると、やっぱり調整能力が無いといけない。それから、海外にもガンガン行けるような人間に育てる必要もあります。人とのコミュニケーションもうまくできるような幹部候補生を創るとというのが、このコースに課された使命だと思っています。基本的なことですが。

ー内村さんの信念が伝わってきますね。

（内村さん）入学した学生には、「ここは大学院という名称ですが、社会人訓練学校だと思って下さい」と言っています。座学の講義だけではありません。現場密着型を重視していますので、企業さんの工場を見学し、現場に入って人とコミュニケーションをとりながら教えてもらったりすることも多くあります。（中略）講義とは全く別の“特別講義”と題して、自分のこれまでの経験をもとに学生と対話する場を設けています。「今、何のために勉強をしているんですか？」、「自分の人生設計を考えたことがある？」、「挨拶の重要性は知っていますか？」など、学生が目的意識を持つようなテーマで討論します。最終的には人間力の向上ですね。

ー四国の紙産業がこれから更なる発展に向けて取り組むべきことは何でしょうか？

（内村さん）紙産業の集積地という恵まれた点を活かして、四国全体で一致団結する必要があると思いますね。これはすごい強みになると思います。四国中央市の紙産業は製造品出荷額でも全国一の規模ですし、高知も和紙や工芸美術に強みがあります。これからは四国の集積地域間の融合や、新しい分野の技術、新しい素材などを取り入れていくことによって、次世代の製品が誕生していくと思います。

ー最後に内村さんの抱負をお聞かせ下さい。

（内村さん）やっぱり、地域の紙産業界に貢献したいというのが一番です。今年度、地域競争力強化事業では、四国の紙産業の魅力を発信し、域外の有望市場や企業と結びつけるための「情報収集・発信検討会」に委員長として参加しています。もっともっと四国の紙産業に注目が集まるようにしたいですね。「新技術を四国から全国に、世界に発信できるようにしていきたい」、そういった気持ちで研究課題に取り組んでいますし、我々も新しい技術の提供をしなければならないと思っています。

第2510回 例会記録 H. 25. 4. 30

職場訪問例会（移動例会）

出席報告

- | | |
|--|----------|
| 1. 出席会員（61名中） | 31名 |
| 2. 出席免除 | 2名 |
| 3. 来訪ロータリアン
（伊予三島RC）
仁野 昭様・大西英彦様
曾我孝志様・井原 伸様
（新居浜RC）
高橋英吉様・桑原征一様
西岡 勝様
（観音寺RC）
細川俊一様 | |
| 4. 当日出席率 | 52. 54 % |
| 5. 前々回補足修正率
（メイクアップ会員）
石村浩会員
（4/11 東京中央RC）
小 山会員
（4/18 新居浜RC）
原 本会員
（4/26 伊予三島RC） | 96. 61 % |

近隣RCの例会日

- 5月9日(木) 観音寺RC
（観音寺商工会議所）
5月10日(金) 伊予三島RC
（三島商工会館4F）
5月14日(火) 観音寺東RC
（観音寺グランドホテル）

次週プログラム

- 5月14日(火)
（出席委員会 担当）

職場訪問

（職業奉仕委員長 寺井隆仁郎会員担当）

陸上自衛隊善通寺駐屯地へ

- 9:00～ 川之江体育館 出発
10:00～ 陸上自衛隊善通寺駐屯地 見学
11:45 見学終了
12:10頃～ 昼食
14:00頃 川之江体育館 帰着